

**粉末検体に対する炭疽菌検査について** 横山栄二, 岸田一則, 久門勝利:平成13年度千葉県獣医学会, 2002. 3. 3, 千葉市

米国における炭疽菌 (*Bacillus anthracis*) によるバイオテロの発生以来, 県内において不審な粉末検体に対する *B. anthracis* 検査の必要性が生じた。今回, 不審な粉末検体の *B. anthracis* 検査依頼についてPCRを応用して対応したので報告する。

検査手順は, 粉末検体をグラム染色して直接鏡検を行い, 芽胞様物質の有無を確認し, 芽胞様物質が確認された場合には粉末検体の浮遊液を対象としてPCRおよび平板培地による分離培養を行い, 芽胞様物質が確認されない場合には平板培地での分離培養および Brain Heart Infusion Broth (Difco) による増菌培養を行い, 増菌培養後にPCRおよび平板培地による分離培養を行った。PCRは, Ramisse らの報告した primer を用いて multiplex PCRで調査した。平板培地による分離培養は, 羊血液寒天培地 (BBL) およびMYP寒天培地 (BBL) を用い, 37℃で培養後コロニー形状, 溶血性を観察を観察し, 必要に応じて運動性を検査した。

現在までに粉末検体40検体を検査したところ, 直接鏡検で芽胞様物質が確認された検体はなく, multiplex PCRでも *B. anthracis* の病原因子のバンドは検出されなかった。

#### 事務所ビルにおけるVOCs濃度の経時変化について

中山和好, 日野隆信, 今関久和<sup>1)</sup>, 中橋ひろみ<sup>2)</sup>:第38回全国衛生化学技術協議会年会, 2001, 11. 8-9, 千葉市

新築事務所ビルの室内空気中のVOCs (48物質) を月1回2年間測定した。トルエンなど初期に高い濃度を示し減少して行くのに対し, 建材由来と思われるホルムアルデヒド, アセトアルデヒドなど数物質は夏季に濃度が上昇し外気温と相関を示す事を報告した。

1) 佐倉保健所 2) 佐倉保健所(現:木更津保健所)

#### 健康危機管理対策関連の苦情事例

矢崎廣久, 福島悦子, 加瀬信明, 中山和好, 高橋治男:第14回地研全国協議会関東甲信静理化学部会研究会, 2002. 2. 22, 川崎市

千葉県の危機管理対策基本指針の策定を機に, 保健所等から化学性の中毒や苦情事例などが持ち込まれている。土間板に付着した臭くて寝られないとの灰白色物質は薄層クロマト (TLC), FT赤外分光 (FT-IR), イオンクロマト (IC), X線マイクロアナライザーなどにより, 「スラグセメント」と決定された。そして, 推定試験も行い, この粉末の生成過程も明らかにした。さらに最近, 毒物鑑定依頼で青色ペースト状物質の塗られたパンが持ち込まれたが, このペーストを3成分に分離し, TLC, FT-IR, IC, UVなどの分析を行った。その結果, 当該物質は約9割のショ糖と1割の化成肥料, そして少量の青色1号の食用色素を練り合わせた手の込んだものと判明, とりあえず事なきを得た。

#### 特異な剤形の鎮咳去痰剤の品質評価方法について

加瀬信明, 矢崎廣久, 福島悦子:第14回地研全国協議会関東甲信静理化学部会研究会, 2002. 2. 22, 川崎市

GMPの査察同行と収去品の承認規格検査を通じて, 試験法な

どに問題のあった特異な剤形の鎮咳去痰剤について, 問題点を具体的にまとめた。おもな点は, 承認後に40年以上もそのまま改善されず作り続け, ある程度時代の技術水準に見合った変更がなかったため, 品質管理試験において規定された水分量が計測不能だったり, 定性確認のための試料液が量的に得られなかったりした。また, 製品は成分として, 塩化アンモニウムを乾燥葉に添加しているが, 内服を前提としたこの成分さえ, S51年の第9局方から削除されているにも係らず効能効果を謳っていた。

### 3. 著書 (抄録)

#### 食品安全性セミナー 4 動物用医薬品・飼料添加物

永田知子 (分担執筆)

細貝祐太郎, 松本昌雄 (監修), 中央法規出版株式会社, 2001.

食生活の変遷とそれに伴った動物用医薬品等の使用量の推移, 動物疾病と対処, 食品衛生上の法規制, 摂取時のリスク, 試験法, 残留実態について解説した。著者は, 残留実態について執筆した。